

劔岳～劔沢雪溪～ハシゴ谷～内蔵助平 山行

2012.9.21～23 単独行

9/21 (金) 小雨～曇り～小雨

自宅 6:15～(買い物・給油) 7:05 扇沢 7:30～(トロリーバスなど
乗継) 9:25 室堂 9:30～11:45 劔御前小屋 (2760M) (昼) 12:20～
13:20 劔山荘 (2475M) (泊) 泊り客約 55 名 9000 円

9/22 (祭) 晴れ 6:00～6:55 前劔 (2813M) 7:05～8:20 劔岳 (日本
百名山、2999M) 8:50～11:05 劔山荘 (昼) 11:45～12:15 劔沢雪溪
出合～12:40 雪溪に～15:10 真砂沢ロッジ (1780M) (泊) 泊り客 4 名
8500 円

9/23 (日) 6:20～7:50 ハシゴ谷乗越 (2035M) 7:55～9:05 内蔵助平
(1700M) 9:10～10:40 内蔵助谷出合 10:45～11:40 黒四ダム下～
12:10 黒四ダム 12:35～(トロリーバス)～12:51 扇沢 13:00～(入
浴)～14:20 自宅

決断力が無くなったせいもあるが、登山計画がなかなか決まらない。今回の私の3連休も目的地が3転4転! 唐松岳～祖母谷温泉・針ノ木谷・不帰のキレット・奥丸山など、追い打ちをかけたのが膝の調子。10/7～9の私の3連休の目

的地含めて悩む。10月に入ると小屋によっては営業をしなくなってしまう所もある。いろいろ悩んだが百名山を目指している、松本市のFさんの手助けも含めて立山・剣岳ユックリコースに決める。所がFさんは予備日の10/7~9も含めて都合が悪いとの事。単独なら8月に予定して延期したハシゴ谷乗越ルートを下山に使うコースに変更する。9/21 天気予報が悪い方に変わり朝から小雨だが雨は午前中に上がる・明日は晴れ、あさっては曇り時々晴れとの予報なので決行をする。食堂では予報どおり雨は止んでいる。でも展望が効かないので立山~別山回りの当初コースは辞めて、みくりが池~雷鳥沢キャンプ場経由の最短コースに変更する。地獄谷のガスの臭いがする中を懐かしいみくりが池温泉を通り、雷鳥沢キャンプ場に。小雨が降り出し雨具を着用する。10分ほどで雨は止む。別山乗越で昼食。剣岳は主峰のみ雲の中で見えない。

剣御前小屋前から剣岳



剣山荘手前で又小雨が降り出した。早々と剣山荘に到着。新築されてとても清潔で小奇麗な小屋になった。今日は小屋は空いている。シャワー室があつて(同時に3人使用可)17:00まで利用で

きるが、今日は汗もほとんどかかなかつたので早速食堂でビールと持参した赤沼酒造製のまたたび酒を飲む。千葉県からの人と話がすすむ。彼は百名山挑戦

中で明日の剣が 87 座目との事。夕食は美味しかった。9/5 にインプラントの手術をして以降うどん・ひやむぎ・パンが主食で半月ぶりにご飯を食べる。感激！。日本人は矢張り米だ。

9/22 食事をするのに歯が少ないので手間がかかって出遅れる。岩の殿堂だけあって岩の登山道が続く。カニのタテバイは短い区間。

カニのタテバエ



所々上り・下りと登山道が複線になっている。カニのヨコバイも含めて全く危険を感じない。「丸危」マークは不要と思うのだが。鎖もほとんど登り・下りとも使わずにすんだ。

人気の山で山頂は 15 人位。8 月

下旬に岩小屋沢岳～針ノ木岳縦走で眺め続け、もう一度登ろうと決意した大好

剣岳山頂から別山・立山を望む



きな「剣岳」の山頂に立った感激に浸る。素晴らしい展望だ。毛勝山・五竜・鹿島・針ノ木・立山・別山・黒部五郎・薬師・奥大日など登った山々を懐かしく眺める。

劔岳山頂



百名山の時にあった「祠」が山頂に無い。風で飛んでしまったようだ。良く見ると石も針金で飛ばされないように縛ってある。私が登った時は標高 2998Mであったが、その後訂正されて 2999Mになった。その

歴史を物語るように両方の表示版があった。それにしても 3000Mにわずか足らない不運の名山である。長次郎谷・平蔵谷・三ノ窓雪渓など万年雪も多い。たしか今年正式に「氷河」に認定されたはずだ。「日本百名山」の著者の深田久弥氏は劔岳に関して記す。「北アルプスの南の重鎮を穂高とすれば、北の俊英は劔岳であろう。」「一つの尖端を頂点として胸の透くようなスッキリした金

下山時山頂を振り返る



字塔を作っているのは、この劔岳と甲斐駒ヶ岳くらいであろう。」「全く劔岳は太刀の鋭さつつよさを持っている。その鋼鉄のような岩ぶす

まは、激しい、険しいせり上がりをもって、雪を寄せ付けない。四方の山々が白く装われても、剣だけは黒々した骨稜を現している。その鉄（くろがね）の砦と急峻な雪谷に守られて、永らく登頂不可能の峰とされていた。」と。

下山時剣山荘方面を望む



気持ちの良い景色を眺めながら下山。剣山荘でビールと昼食。あまり歩く人が少ない感じの剣沢雪溪への近道を下る。ちょうど雪溪の始まる箇所で合流するが夏道（秋道が正しいと思うが）

を下る。雪溪を歩く方が楽だが「安全」の為にかなり夏道を下る。

剣山荘から剣沢小屋方面



剣山荘前



ピンク色の旗の或るところから軽アイゼン着用して雪溪を下る。この日本3大雪溪の一つの剣沢雪溪下りと今日泊まる真砂沢ロッジは昔、仙人池・池の平へ

紅葉の「裏剣 八峰」の写真を撮りに行った時に利用した。懐かしい。ユックリ休みながら下る。下部は大きなクレパスなどあり慎重になる。

剣沢を下降します



夏道になる地点が分かりにくくて時間を無駄にする。夏道は崩れたり歩きづらい。懐かしい真砂沢ロッジに到着。まずビールを飲んで風呂に入れてもらう。建物はほぼ昔のまま。5 部屋あるが廊下がないので、何処へ行くにも他の部屋を通る事になり使いづらい。トイレも外で夜中や雨天時は不便。でも経営者が変わったせいで何かとサービスは良いし食事も

品数も多く美味しかった。

剣沢と剣岳



夜中にトイレに行ったが9月下旬とは思えない暖かさだった。まさか朝から雨になるとは思わなかった。雨の中を雨具を着て歩くのかと思うと気が重いが行くしかない。

クレパスが不気味です



此処からのコースは 8/19～20
に歩く予定だったが、前日に予
約した時にロッジのオーナー
(彼はガイドで昭文社の山と高
原地図「劔・立山」の編集者で
もある。彼に内蔵助山荘から内

蔵助平間のコースの状況を聞いたかったのだが、ガイドの仕事か不在だった)
が「暑くて大変・一般道ではないので、体力的にも大変なので辞めた方が良い
のでは?」。と言うので延期した経緯があるので不気味だ。

真砂沢ロッジに到着



真砂沢ロッジ前で早速ビール



ロッジから少し歩いて木橋を渡ってハシゴ谷に向かう。そのまま直進すれば、
仙人池・池ノ平方面になる。そんなに苦労せず、梯子も5つ位短いのがあった
だけで乗越に到着。ハシゴ谷乗越付近からの劔の展望が素晴らしいようだが残念
ながら全容は見えない。往復10分ほどの展望台もあるが小雨なのでパスす

る。潤れ沢状の大石がごろごろした歩きズライ下り道が延々と続く。膝に悪い。

ハシゴ谷乗越付近から剣沢・劔岳方面



内蔵助平（くらのすけたいら）に着く。内蔵助山荘からここまでのコースは昔から歩きたいと思い続けた登山道であるネットで検索してもほとんど情報が載っていない。富山県警の山岳担当に問い合わせたが「うちの隊員も誰も歩いていないので分からない」との回答だった。200Mほど歩いてみるが細い踏み跡が確かに続いている。長野市のAさんと

イワナ釣りにどうかと話し合った所だ。この辺にテント泊で。橋を渡り内蔵助谷を黒部川目指して下る。この区間の登山道が悪かった。川より高い所に道があるのだが、所々崩落していて、その箇所が道が細く、滑りやすい。ロープが張ってあるが全神経を集中して通過する。そんな嫌な区間が10か所程あった。

内蔵助平の橋を渡る



黒部三大岩壁の一つの黒部の巨人・丸山東壁と黒部の魔人大タテガビンに挟まれた所であるが。雨具のズボンが歩きずらいので、余計に神経使う。

黒部川との出合に到着。此処から黒四ダム間はイワナ釣りや下の廊下（旧日電歩道）の時に何回か歩いているので、ユックリ休みたいのだが小雨でそんな気にならない。

旧日電歩道



結局黒四ダムまで小屋から 6 時間、水を飲む時・写真を撮る時以外休憩も無、間食も無、であった。歩き易い道を 1 時間弱で観光放流している黒四ダム下に到着。此処からダム上まで最後の登りになる。歩き通しで通算コースタイムより 10 分早くダム上に着く。あまり疲れた感じは無いが雨具を着通しで、湿っぽい気持ちだ。登山者用に水道と

流しがあり、先着したグループが体を拭いたり、着替えたりしている。



← 黒四ダム下に到着

関電はかなり儲けていたのだから、女性登山者の事も含めてせめて更衣室位設置してくれても良いのではと思った。

ダム下の橋



帰路、又何時もの大町温泉「上原の湯」でユックリ入浴して帰宅した。山で一番好きな「劔岳」に登り、北アルプスの未踏区間（ハシゴ谷～内蔵助谷出合間）を歩けた感激と達成感をかみしめながら瓶

ビールを頂いた。次は10/7～9の3連休（私の）。13～14の連休何処へ行こうか又思案が始まる。

劔岳の雄姿

